

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4674900164		
法人名	医療法人 幸望会		
事業所名	グループホーム スマイル園		
所在地	鹿児島県出水郡長島町鷹巣3681番地5		
自己評価作成日	平成22年4月5日	評価結果町受理日	平成22年6月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島		
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号		
訪問調査日	平成22年4月14日	評価結果確定日	平成22年5月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 母体法人の運営する医療機関と渡り廊下でつながっており、緊急時の連携体制がとれています。
 * 自家菜園で季節の野菜を作り、採れたての物を食材として利用しています。また、海の幸が豊富で、新鮮な魚料理を提供しています。 * お花見や秋の行楽にご家族にも参加いただき、ご家族と事業所との関係づくりを大切にしています。また、秋に法人の祭りを開催しており、ご家族はもとより町内の方が300名ほど集まり、職員の出し物やボランティアの方の出し物で楽しんでいただいています。 * スタッフの子どもが頻りに遊びに来ており、家族同然のように一緒に遊んだりして成長を楽しみにされています。 * 2ヶ月に1回勉強会を行っています。担当者を決めており、自分たちで課題を見つけ、調べて担当者が他の職員に教える形をとっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・母体の医療機関に隣接して建てられたホームであり、状態の急変時や災害等の緊急時にも緊密な連携で迅速な対応ができる体制である。
 ・職員の子供が学校帰りに立ち寄り、「ただいま」と声をかけるなど、ホーム全体に家族的でほのぼのとした雰囲気を感じられる。
 ・運営推進会議や地域ケア会議での連携に加え、法人主催の祭りにも町職員が参加するなど、行政との緊密な協力関係が築かれている。
 ・集落のごみステーションにおいて資源ごみの仕分け作業を手伝うなど、地域への貢献も行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全員参加の話し合いで理念を作り、毎月の話し合いの場でそれに関し、気付きがあればスタッフ、管理者問わず意見・注意等を出し合うようにしている。	職員全員で話し合いながらまとめ上げた理念は、ホームの役割の原点が盛り込まれている。ステーションや玄関に理念を掲示しており、スタッフ間で共有しながら実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	慰問や行事の際、子供たちが来園して地域との交流を図っている。地域の行事に可能な限り参加、顔出しをし、つながり作りを行なっている。(資源ゴミ出しの仕分け作業等)	幼稚園の子供たちがホームを訪問して遊戯を披露したり、小学生からの招待状をもらい学習会に参加するなど、地域の子供たちとの交流が盛んである。また、公民館からの呼びかけで、集落の行事にも積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の介護保険係、包括支援センターと合同で居宅介護を行っている方を対象とした介護教室を検討中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議で、利用者、施設の状況を報告し、意見を貰ったり、地域や家族からの意見、質問を頂き、その場で解決できないことなども、後日や次回に持ち越して解決できるようにしている。	運営推進会議には、家族代表・地域住民代表・行政担当者が参加して、ホームの活動や計画を報告したり、出席者からの質問に対して説明を行ったりしている。会議で出された要望や提案に対しては積極的に取り組み、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議や地域ケア会議などでも連携をとり、施設の状況や取り組みを伝えたりし、必要な場合協力を得たりしている。	2ヶ月に一回開催される「地域ケア部会」に参加し、行政や地域の他事業所との連携を図る機会としている。運営推進会議の前後に、町の担当者が利用者とは話するなどして暮らしぶりを見てもらう機会を作っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	園の勉強会でも取り上げ、認識を高め、実際の場面でも、ベッドからの転倒リスクの高い方への対応でベッドをなくし、マットで這って動きやすい工夫などしている。	身体拘束についての研修を、担当者を決めて実施している。自傷や事故防止の為の身体拘束については、ご家族への説明を行い同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	老人虐待法の定義と実態について勉強会を開き職員の認識を新たに防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	21年度は勉強会でも取り上げなかったのが、22年度は勉強会を行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、重要事項説明書と運営規定等に基づいて出来るだけ管理者が立会い、信頼を得ながら理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会にて家族から意見を頂き、利用者からも随時要望を聞いている。また、意見箱の設置や苦情の受付窓口を設けている。また、会議の折にも常に問いかけ、意見を取り上げる姿勢を示している。	運営推進会議に、ご家族が順番で出席している。年に二回開催している家族会では、運営推進会議の中で話し合った内容を報告したり、要望や相談に対する取り組みの報告を行っている。また、意見箱の設置や面会時の声かけをするなど、なるべく多く意見を聞く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで皆の意見を把握して、検討、決定したり運営推進会議には計画作成担当者等のスタッフの参加を行なっている。	月に一回のミーティングの中で、業務改善やケアの方法について話し合ったり、利用者の受け入れの報告を行っている。また、ユニット間の情報交換を緊密に行いながら、サービスの質向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に対し、積極的に支援し向上心をもてるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングでの勉強会では自分たちの勉強したいことのほかに、スタッフの経験に合わせたテーマを出したりしてそれぞれにトレーニングとなるよう図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア部会で地域の同業者との意見交換を行なっている。また、外部研修も意見交換の場として活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所し、本人や家族から情報を聞き、生活暦をふまえた会話をもち、コミュニケーションのきっかけとし、安心感を与えられる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談で本人も含め、家族の持つ疑問や不安を軽減できるような対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援に応えられない状況や条件であっても相談をよく聞き、適切なサービスの紹介等心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年間行事や季節の食べ物を大事にした生活を心がけその折々に、人生の先輩からアドバイスや、会話の出やすい環境を心掛け互いに助け合える関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	園便りで定期的な状況・行事報告を行い、面会や必要時の連絡の時にも、近況を伝え、家族と情報を共有し、共に考えることを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活暦で得た情報や同集落のST、入所者を交え、地域の方の話題や地域の行事等を話題に盛り込んだり、ドライブでは自宅付近に出かけたりしている。	地域の友人や知人が母体の医院を受診した帰りに面会に寄ったり、訪問することを促す支援を行っている。ドライブで自宅近隣に出かけたり、馴染みの美容室を利用するなど、馴染みの関係を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	役割分担で、互いに助けられたり、助けたりの関係作りに努め、トラブル調整もすぐに介入せず入居者同士の係わり合いをみながら行なっている。また、特記すべき事は日誌に書きとめ情報共有に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も地域の方なので家族を含め会う機会も多いので、その後の経過把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で何を楽しみにされておられるか、声をかけたり表情から読み取ったりして把握に努めている。困難な場合、スタッフ皆で本人の思いを確認することを心掛けている。	行動や表情、サインなどから意向の把握に努め、申し送りやミーティングの中で話し合い、本人本位に検討している。食材の調理方法を相談したり、お菓子を選んでもらうなど、利用者を選択してもらう機会も設けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時や必要時の情報収集にてその方の生活歴の把握に努めている。また、記録や7表にて入居中の経過なども把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	7表でのその人らしさの記録と経時的な記録でどのように過ごされているか、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りやミーティング、家族会、運営推進会議などで意見交換を行ない、介護計画の作成に活用している。	毎朝かかりつけ医へ申し送りをを行い、相談や助言を受けている。ご家族の面会時に意向を聞き取り、職員全員で話し合い介護計画を作成している。ご家族からの同意も得ているが、担当者会議への参加がみられない。	面会や行事への参加に合わせて担当者会議を開催するなど、ご家族が参加しやすい環境を整え、要望やアイデアをさらに反映した介護計画が作成されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、経時的な記録とその方の様子が覗える記録をとっている。職員間の情報の共有を徹底し、担当者会議を基に介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体法人が運営する医療機関と隣接しており、医療的ニーズが発生した場合には本人や家族に柔軟な対応が取れるよう連携している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防からの協力を得ている。小中学校、保育園、幼稚園へは慰問の依頼の働きかけを行ない、年数回実施している。運営推進会議にて役場や公民館と連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人が運営する医療機関と隣接しており、主治医の定期的な訪問を受けており、また、状態の変化があった場合はその都度報告し、早急な対応をとっている。	かかりつけ医に毎日の状態を報告しており、週二回の診療が受けられるように支援している。他科受診の際は、かかりつけ医に紹介状を書いてもらい、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を常勤で配置し、また、定期的な訪問看護を受け健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は情報の提供を行なっている。また、家族・スタッフで協力し訪問したり病院関係者と情報交換を行ない、速やかな退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアのマニュアルを作成し重度化、終末期への対応に備えている。必要に応じて本人や家族の意向を確認し、安心して最期を迎えられるように医師、職員が連携を取っている。	利用開始前にホームとしての方針を説明し、「ターミナルケア依頼・受諾書」を取り交わしている。状態変化時や重度化の際は、ご家族の意向を頻回に確認し、職員へ方針の周知を行いながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアルや自己発生時のマニュアルを作成し、定期的に訓練を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、火災訓練を日中、夜間想定で年2回行なっている。また、火災時の地域協力隊の存在もある。	スプリンクラーを設置しており、自動通報装置の取り付けも計画されている。公民館長の声かけで地域協力隊が組織されており、夜間想定の方針訓練も実施している。また、自家発電設備や井戸もあり、必要品の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地元の言葉での会話で親しめる環境作りをしているが、年長者としての敬意を忘れないよう心掛けている。排泄の誘いかけ等は羞恥心に配慮した言葉掛けに留意している。	ミーティング内で、利用者に対して敬意をはらった声かけの方法を指導しており、特に失禁時の対応方法については、羞恥心に配慮したケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で言葉として出る意思だけではなく、時間や本人の動きから推測し、尋ねたりして希望の表出や自己決定の支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で、本人がしたいようにのんびりと過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己での身だしなみが困難な方には、STで声かけしながら介助している。散髪は理美容院の利用を支援したり、希望の方には本人の望むカットもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	園の畑で収穫した野菜などで、食卓を囲む時が多々あり、その都度、園で皆さんの手をかり作り収穫した物だと話し楽しんでいただいている。	菜園で採れた新鮮な野菜を使って調理したり、誕生会には本人のリクエストをメニューに取り入れるなどして楽しみを作っている。利用者の力量に応じて調理の下ごしらえを手伝ってもらうなど、経験を活かして張り合いのある生活ができるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量の把握に努め、食事量の少ない方には食事形態の工夫や栄養補助食品、点滴など、Dr.Nsとの連携を図り、適切な支援を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、眠前に状態に合わせた口腔ケアで肺炎予防を図っている。義歯の出し入れの困難な方などは介助にてSTで行なっている。夜間は専用洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態に合わせてオムツやリハビリパンツ、布パンツの使用を考慮している。排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行い失敗意識や不快感の軽減を図っている。	トイレが設置されている居室もあり、身体能力に合わせてベッド配置を行いながらトイレでの排泄支援を行っている。また、排泄リズムをチェックしてトイレ誘導しながら、布パンツ使用へ移行するなどの自立支援にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給、食物繊維の多い食材での調理等排便を促す工夫をして、それでも見られない場合個々に合わせた薬物での調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	朝から数回声かけし、入浴後の服の準備などしていただき、衣類のプレゼント等話題を盛り込みながら入浴を楽しみなものとなるよう支援している。一人一人の希望の入浴は出来ていないが、必要時には臨機応変に対応している。	入浴は月・木・土曜日の午後からと決まっているが、状態や希望に応じていつでも入れるように柔軟な対応が取られている。入浴を拒まれる利用者の場合は、声かけや誘導方法の工夫をしながら、個別の入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの体調に応じて自室やソファにて休んでいただいている。週1回のリネン交換と汚染時の交換で清潔で気持ち良いものとしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導を受けたり、服用している薬の内容を明記し理解に努めている。また、そでそれに合わせた与薬を行い安全、確実な服用に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	旬の食べ物などの皮むき、下ごしらえなどしていただき、食事に出すことよっての喜びを感じていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的にドライブを行ったりしている。	買い物や墓参り、ドライブなどの外出機会のほか、敷地内の菜園で職員と一緒に収穫したり、地域の行事に参加するなど、積極的に戸外へ出かけている。また、ご家族との外出や外泊支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により職員預かりにて散髪、行事等に持ってもらい使用し、記帳し管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じて家族の方に連絡している。職員が園便りにて入所者の様子など家族の方へ伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔が保てるよう配慮し、シンプルに整えている。生活感や季節感を飾る花を含め園で取れる野菜などを多く取り入れている。	食堂ホールにはソファが置かれ、広いフロアも設けられており、思い思いの空間で過ごせるようになっている。ホールの壁には、幼稚園児からプレゼントされた手作りのカレンダーや季節を感じられる装飾品が飾られ、調理の音や匂いを楽しみながら、心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビのある人の集まるホールだけでなく、食堂の脇にもソファを置き思い思いに過ごせるくつろぎの居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が必要な物は家族に頼み、持ってきてもらっている。TVをよく見る人は部屋にTVがある。	テレビや寝具など、使い慣れたものを持ち込めるように支援している。利用者の動線に応じて、手すりやベッド柵を手作りで装着するなど、生活しやすい環境作りを行っている。また、ベッドの位置や家具の配置など、本人やご家族の希望を取り入れながら工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに手すりの取り付け、椅子に名前を書いた座布団を敷いたり、部屋の戸に自分で作った名前を貼っている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームスマイル園

作成日 平成22年6月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	ご家族の面会時に意向を聞き取り、職員全員で話し合い介護計画を作成しているが、ご家族の担当者会議への参加が見られない。	ご家族の担当者会議への参加がいただける。	面会や行事への参加に合わせて、柔軟に担当者会議を行う。	介護計画作成時
2	8	権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設けていなかった。	権利擁護に関する知識の向上	月に事業所内の勉強会の課題に上げ学習の機会を設ける。	平成22年7月末日
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。